

ミステリ読書案内

2024. 3. 19 発行元

第560号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

井上真偽「アリアドネの声」

昨年6月に幻冬舎から出た井上真偽の『アリアドネの声』を取り上げてみる。『このミステリーがすごい!』年間ランキング第5位にランクされた注目作。併せて『ぎんなみ商店街の事件簿』の方も…。

地下都市WANOKUNI

設定が特殊だ。未来の「地下都市構想」のひとつの例として建築された「WANOKUNI」プロジェクト。地表にも建物はあがあるのだが、メインとなる部分は地下。地下一階がショッピングセンター、地下二階がオフィス群、地下三階が工場と倉庫、地下四階が発電施設など、地下五階に地下鉄が入っている。

理科系らしい発想の流れだが、私の感覚では「ちょっとここには住みたくない」と思ってしまう。

地震の被災者を地下から救出…

主人公は高木春生。ドローンを開発するベンチャー企業の社員。ドローンの名前が「アリアドネ」。WANOKUNIでは物流の一翼をドローンが果たしているため、オープニングセレモニーに呼ばれた。

そこへ巨大地震。(日本では地震を避けることはできない) 地下一階と二階は火災が発生。最下部からは浸水が始まる。(活断層によるも

のと書いてあるが、その震源の深さが5.4kmというのは通常ありえないと思うのだが…)

地下五階に取り残された被災者をドローンの力で救出する物語。その取り残された人物は「見えない、聞こえない、話せない」の三つの障がいを持っており、発見できても、どのように導いたら良いのかわからない。究極の難問。

ドローンが大きな役割を果たす

最新型のドローン。各種センサーを搭載しているのは当然だが、AIの力で自己判断が可能などところが素晴らしい。もちろん操作する技術者の能力にかかってくる部分も大きいのだが…。

センサーなんて人間の感覚と同じ。いや、それ以上の力を持っている。カメラで見て、音を拾い出し、物との距離を測り、熱源なども見分ける。これらを駆使しての救出活動が開始される。地下の地図に被災者の位置を示し、浸水するまでの残り時間が各章の始まりに示される。

井上真偽の作品リスト

1. 恋と禁忌の述語論理
2. その可能性はすでに考えた
3. 聖女の毒杯
4. 探偵が早すぎる 上下
5. ベーシックインカム
6. ムシカ昆虫譜
7. アリアドネの声
8. ぎんなみ商店街の事件簿

BROTHER 編・SISTER 編

緊急時の一刻を争う場面の連続。手に汗を握る状態のまま結末まで突っ走る。そんなストーリーだ。『このミステリーがすごい!』ランキング上位に入ったのも当然かなと思う出来栄。

主人公の高木は小さい頃に兄を水難事故で失っており、そのトラウマが、今回の地震対応でも時折顔を出す形になっている。そして、三重障がいを持つ人物の行動が多く、その人の想像を超える形で進み、それが感動に結び付く。

少しだけ難点を上げれば…

地下都市WANOKUNIの細部と地震の被害をもう少し具体的に描いた方が良いのでは…。

もうひとつ。本書。本の材質が硬すぎ。ソフトカバーなのだが、表紙の紙も中の本文の紙も硬すぎて開きにくい。もう少し軟らかく。

『ぎんなみ商店街の事件簿 BROTHER 編 SISTER 編』

昨年9月に小学館から出

た本。二冊でワンセットの試みに挑戦した本。元は雑誌『小説丸』に連載したものを二冊の単行本にまとめた。『BROTHER 編』は木暮四兄弟の側から、『SISTER 編』は串真佐の竹宮三姉妹の側から同一の事件を描く形になっている。どちらの編から読んでもよいと書かれていたので私は『SISTER 編』を先に読んだ。やはり、どちらを先に読むかで印象は違うかもしれない。『SISTER 編』を読み終えた時点では事件の輪郭が明瞭には把握しきれず、曖昧さが残った印象。『BROTHER 編』を読んで、「まあ納得」といった感想である。

「ぎんなみ商店街」は銀波寺から続く坂道にある古くからの町並みで、人の繋がりが強い地域。木暮兄弟の母親は絵本作家だったが病気で亡くなった。父親は海外出張で、兄弟四人が助け合って生活している。竹宮姉妹の両親は焼き鳥屋・串真佐を営んでいて忙しく、日常生活は姉妹で協力し合ってこなしている。第一話の『桜幽霊とシェパード・パイ』(B編)『だから都久音は嘘をつかない』(S編)は坂道で起きた交通事故の問題。カーブを曲がり切れずに商店に突っ込んだ車の運転手が死亡。単なる交通事故に見えるのだが、木暮兄弟の一番下の良太が、事故後に助手席側から下りたような影を見たと言ったので、真相がどうだったかを調べ始める。素人の調査なのではっきりしない点が多いのだが、人間関係をたどっていくと…。違う推理が…。